

長崎県

定数：5名

立候補者数：5名



氏名 小無田 彰仁
氏名ふりがな こむた あきひと
都道府県士会 長崎県
年齢 60
勤務先名称 和仁会病院

日本理学療法協会活動歴

平成30年6月～現在	(公社) 日本理学療法士協会	代議員
令和3年4月～	(公社) 日本理学療法士協会	表彰委員会委員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

平成20年4月～平成26年3月	(社) 長崎県理学療法士会	理事
平成26年4月～現在	(公社) 長崎県理学療法士協会	理事 事務局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私たち理学療法士を取り巻く社会的環境は近年いろんな意味で大きな変化を遂げた。医療の高度化にともない、臨床現場においては不確実・複雑な事象の解決が求められ、幅広い知識とともに高度なスキルが求められることとなった。

また、様々なライフステージにおける多様な社会ニーズに対応するために、私たち理学療法士は自己研鑽に努めなければならない、臨床での研究活動や科学を探求することは、理学療法の発展につながり、引いては私たちの仕事(職域)を守ることに繋がるものと考えられる。次世代を担う会員一人ひとりが専門性を活かし、地域や社会で活躍できるような土台作りが必要で、その実現に向けては日本理学療法士協会と都道府県理学療法士協会が一致協力、課題を共有し、密な相互連携を図ることが重要であろうと考えます。



氏名 大山 盛樹
氏名ふりがな おおやませいじゅ
都道府県士会 長崎県
年齢 62
勤務先名称 柿添病院附属中野診療所

日本理学療法協会活動歴

- ・平成11年度—令和7年度：日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

- ・平成11年度—平成25年度：理事・副会長
- ・平成26年度—平成29年度：理事・副会長・政策検討委員会委員長
- ・平成30年度—令和7年度：代表理事・会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

現在、私たちの組織が直面している最大の課題は、全国的な組織率の低下です。特に次世代を担う30代から40代の休会・退会や無関心が進行している現状は、職能団体としての将来を揺るがす深刻な事態であると危惧しています。

長崎県士会においても日本理学療法士協会と連携し様々な策を講じておりますが、未だ十分な成果を得るには至っておりません。この背景には、増大する業務負担に見合わない賃金の停滞、そして多様化するライフスタイルの中で会員の皆様が抱える「生活の窮屈さ」があります。

休会を選択せざるを得ない会員が増えている現状を重く受け止め、休会がそのまま退会へ繋がらないよう、組織のあり方を根本から見直す必要があります。

組織離れの要因の一つに、学術・技術の研鑽が実利に結びついていない現状が挙げられます。新生涯学習システムは開始から5年目の更新年を迎えますが、ポイント取得の複雑さや運用の不透明さが、会員の意欲を削いでいる側面は否定できません。私は、認定・専門理学療法士などの資格取得が単なる自己研鑽に留まらず、診療報酬・介護報酬への反映や、職場での給与・昇格といった「明確な利益」に直結する仕組みづくりを強力に後押しします。質の担保が正当に評価されない限り、会員の皆様の熱意を維持することは困難であると確信しています。これまでの長崎県士会役員および協会代議員としての経験を活かし、現場の声を協会へ確実に届け、組織の変革を支援します。また、協会のビジョンをタイムリーに「見える化」し、県内会員の皆様に分かりやすく伝えることで、長崎県士会の事業運営をより有益なものへと展開してまいります。都道府県レベルの実情を反映させ、会員の皆様が「入会していて良かった」と思える組織を再構築するため、微力ながら全力を尽くす所存です。皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



氏名 浦川 純二
氏名ふりがな うらかわ じゅんじ
都道府県士会 長崎県
年齢 58
勤務先名称 長崎県島原病院

日本理学療法協会活動歴

2024年～ 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2012年～ 理事
2014年～ 理事・教育学術局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

現在、県協会において教育学術局長を拝命し、会長以下一丸となって会員の学術活動が円滑に行われるよう運営に携わってまいりました。学術活動における課題として、都市部と過疎地域、島嶼部など特性が異なる地域が混在していることが挙げられます。コロナ禍で研修のWEB化が進んだ結果、講義形式による知識を得る機会は均等になり、地域間格差はほぼ無くなりました。しかし、技術研修においては対面による実技の直接的な学習が不可欠と考えられますが、参加数は低い傾向となっています。また、興味関心の方向性や世代間による参加率の差が広がっており、組織率や価値観の多様性などへの課題と併せて、卒後教育の方向性や学術活動のあり方を考えなければならない時期に来ています。代議員となった暁には、県士会会員の意見を反映させ、より自己研鑽を積みやすく本会を活用し、生涯にわたり学習を続ける意欲を持ち続けることができるよう、働きかけていきたいと考えています。微力ながら皆様のお役に立てるよう努力する所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 井手 伸二

氏名ふりがな いでしんじ

都道府県士会 長崎県

年齢 64

勤務先名称 長崎リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

日本理学療法士協会代議員 13年 2013年4月～2026年2月現在

都道府県理学療法士（協）会活動歴

長崎県理学療法士協会理事 16年 2010年5月～2026年2月現在

学会連合及び同連合会員団体活動歴

なし

立候補の趣旨

長崎県理学療法士協会に副会長としてこれからの理学療法士の在り方を考えて行くうえで、医療モデルにはまらない実際的な活動をとおして社会的な認知度をさらに高めていく必要性を感じています。特に、一般住民や行政の持っている認識をさらに高めることが重要です。そのための大きな柱を二つ記して立候補の趣旨といたします。

○地域から必要とされる理学療法士：医療機関に従事する理学療法士は医療の立場で実施した理学療法が本当に効果があったかどうかのアウトカムは実際の地域生活の中にあります。また地域においては介護予防など理学療法士が多く従事しています。長崎県理学療法士協会として派遣に資する質向上と派遣の仕組みづくりの再構築を進めたいと思います。

○多職種と協働できる理学療法士：長崎県では理学療法士・作業療法士・言語聴覚士と一体となった長崎県リハビリテーション専門職団体協議会を組織化し、県行政や県医師会など他団体との協働を進めるべく活動を行っています。まず協働していく取り組みを行いながら、理学療法士の専門性を理解してもらうことと協働スキルのための研鑽を積んでいく環境を整えます。若い人たちが部門の長たる立場で仕事をしています。こういった人たちとの接点を増やし、ニーズの掘り起こしを丁寧に行っていきたいと考えています。

このような二つの柱を中心に、理学療法士の働く環境を整えていきたいと思います。



氏名 山下 潤一郎
氏名ふりがな やましたじゅんいちろう
都道府県士会 長崎県
年齢 62
勤務先名称 長崎記念病院

日本理学療法協会活動歴

平成7年4月～平成9年3月代議員
平成11年4月～平成14年3月代議員
平成23年4月～現在代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成12年4月～平成30年3月理事
平成30年4月～現在副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

現在、副会長として会長を補佐し、会員の活動が円滑に進むよう士会運営に携わっています。副会長以前は、診療・介護報酬、士会員の雇用状況など身分制度に関わる分野を担当し、現場の課題を把握してきました。副会長となり全ての部局に関わる立場となったことで、士会全体の運営方針や課題をより広い視点で捉えることができ、今後の発展には士会だけでなく協会との関係性を適切に保ちながら運営していく必要性を強く感じています。今回の同時改定では、急性期における365日のリハビリ提供や、医療・介護のさらなる連携強化が求められており、理学療法士に対する社会的期待は一段と高まっています。今後は自施設のみならず、地域全体を活動の場として捉え、地域包括支援センター、地域住民、他職種との協働を通じて地域包括ケアの深化に積極的に参画することが求められます。そのためには、臨床能力だけでなく、社会人としてのモラルや社会性を備えた理学療法士を育成することが重要です。しかし、急速な会員増により卒前・卒後教育が十分に追いついていない現状があり、質の向上が喫緊の課題となっています。生涯学習制度のもと卒後教育は進められているものの、実習指導者の養成や教育体制の整備など、依然として多くの課題が残されています。理学療法士の養成に関する教育システムには改善すべき点が多く、協会との連携を強化し、現場の声を反映した意見を積極的に具申していく必要があります。これらの課題を解決し、臨床で働く理学療法士の地位と身分を守るためにも、会員の意見を丁寧に汲み取り、士会と協会の橋渡し役として働くことが重要だと考えています。その役割を果たすべく、長崎県士会の代表として代議員に立候補いたします。